

ヒューマン・エコロジー研 松田 喜美子

1. 目的

1965年フランス政府は20年後の未来予測を1985年グループに諮問し、「変わる人間・社会」を、世界に先駆けて分析を行った。その指摘について、私は日本及び工業先進国に於ては90%の確率をもつものとする。経済原則論が20世紀の支柱として、今日の生活環境に不安感をもたらした。この時期に人間の存在の意義を検討することのやましい家政学の発展と役割りにつながることを考える。

2. 方法

イ. 1985グループによる「変わる人間・社会」の分析。

ロ. [衣生活]1982年4月号 加速度社会に対応する新しい家政学の役割。

ハ. 人口問題研究所長、雅嶋信男氏、[家政論]

ニ. [流通]松平恒氏グループ 80年代生活意識調査

ホ. まとめ

3. 考察

1985年グループによる指摘の分析を、日本の立場から分析し、21世紀の出発点としての座標をもつ85年を焦点にした。多様な変代の中で中核となるべき「人間を主体とした調和と発展の支軸を、エコロジー(個人・社会・自然)的立場から、調和をオーに考えたい。来るべき困難な時代に 遺産としてのよりよい種まきを21世紀への出発としたい。